

なきごえ



1979

3

大 阪 市
天王寺動物園協会

動物と私

田川 正之

ひみつの池



その草と木におおわれた古い小さな池は、子供達が「へび山」と呼んでいる小高い丘の雑木林にひっそりと隠れていた。小さい網さえあれば、カエル、メダカ、フナ、タガメ、イモリ、ゲンゴロウ、ミズスマシ……時にはカメまでがその日の獲物として加わるような宝の池であった。

ここは我らが悪童5人グループが、泥まみれ、擦り傷だらけで活躍中、1人が落ちこんで見付けた池だ。へび山と気味わがらされているこの林には子供は勿論大人もあまり近寄らない。悪童達はこの池を「ひみつの池」と名付けた。そばに稲わらで数人が入れるひみつの基地を造り、池のことは絶対他人にもらさない。学校が終わったら何があろうとまずここへ集る。へび山は名前の通りへびだらけとふれまわる。……等々。指きりをして誓い合った。

これらの誓いは守られた。「明日の理科は〇〇、用意してこい!!」と先生の命令。〇〇は勿論小動物だ。メダカやカエルのこともあれば、フナやドジョウやオタマジャクシのことも。いつ如何なる場合でも我らがグループだけは、命令された動物を、生きのいいと必要数、一番速く調達した。先生は半ばあきれ、半ば不思議そうな顔をしながらも、その労苦をたたえてくれた。この時だけは我らが悪童グループも泥だらけの顔を得意満面に輝かしていたものだ。「ひみつの池」を持っていればこそである。

何十年か過ぎて2人の息子があの時の悪童の年齢になっていた。「ひみつの池」のあった丘は平らに整地され、文化住宅が建ち並び、昔の面影の片鱗すら見られない。「あの頃は……」と息子達に話す思

い出が「ひみつの池を造ろうか!」と発展した。善は急げ、と庭に穴を掘り出した。悪戦苦闘の3週間。1坪あまりの穴ぼこに水が入った。住んでくれる動物が居ればよいが、と心配しながら、店子探しが始まった。種類を問わず、老若問わず、♀♀、身長、体重問わず、ここで生活出来そうな動物なら一切合切。日曜、祭日、朝から晩まで、網とバケツをかかえて息子達と泥んこで、川へ、池へ。その甲斐あってか、我が家の池の住人?は次第にふえて、ウシガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、フナにモロコにキングギョにメダカ、カメとイモリとヒル、アメンボウ……満員御礼である。

顔ぶれはなんとかあの「ひみつの池」に似てきたが、問題は仲良くしてくれるかどうかだ。困ったのはウシガエル。夜中にすごい声で鳴く。「おーん!!」「おーん!!」3匹で合唱されてはたまらない。おまけに池の同僚達をガブリ!! 折角の店子なれども彼らには住人を御遠慮願うことにする。

その後の池は平穏無事。水草もふえ、夏ごとに新入りが増えた。餌もわずかな差入れでどうにか自給出来ているのか、元気そのもの……と突如、黒い干柿のような仔ガメがぞろぞろ這い出して来た。あちらに数匹、こちらに数匹、樹の根元の軟らかい砂地から合計15匹。どのカメの仔か判らない。多分あれとあれのだろうな、と想像するだけである。……とまたまた大異変!! ごまにしっぽをつけたようなメダカがうようよ現れた! フナもキングギョも産卵してる! オタマジャクシも泳いでる! えらいこっちゃ! そのうち池があふれるのとちがうやろか!!

水が冷たくなって、さすがに騒々しいちび共も何処かへ姿をかくした。へび山の池の冬さながらの静けさ。時々ゆれ動く水草や水面、沈んだ枯葉。我が「ひみつの池」の住人達もこっそりと春の準備をしながら、水ぬるむ日を待ちこがれているにちがいない。

(動物学会々員)

なきごえ3月号もくじ

動物と私	2
“チャムネシャクケイ”	3
動物園グラフ・日記	4-5
動物園生活27年(上)	6-7
天王寺の動物たち(24)	8-9
キーパーズ・アイ ⑨	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

「シチメンチョウ」

奇妙な顔と独特な声で人気を集めている当園のシチメンチョウは、大きなダチョウやビクイドリなどと共に走鳥舎の主みたいな存在です。

(撮影:大野 尊信)

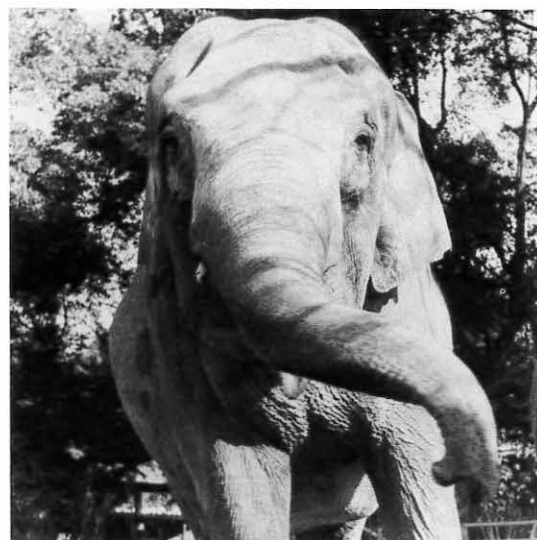


“チャムネシャクケイ入園”

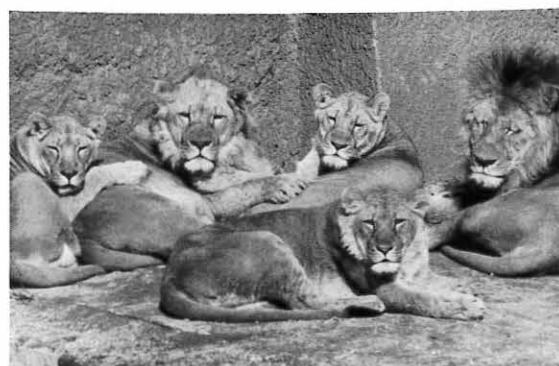
昨年11月に入園したチャムネシャクケイは中南米に住むキジの仲間ですが、地上性の他のキジ類とはちがいで、主に樹上で生活し、営巣も産卵も樹上で行ないます。

(撮影:農本 武志)

動物園グラフ



1位 ゾウ 2,802票 (2位 1,765票)



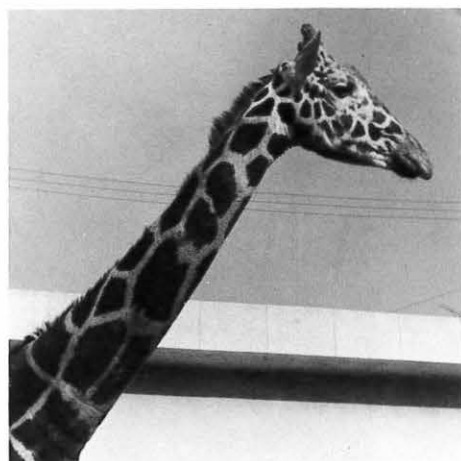
3位 ライオン 1,171票 (4位 1,022票)

＝人気動物ベストテン＝

昨年、秋の動物園まつり期間中の10/5～10/25まで「動物人気投票」を入園者から募集し、次のベストテンが決まりました。

なお、()内は 昭和40年11月におこなわれた人気ベストテンです。どれくらい変化しているか比べてください。

(撮影：農本 武志)



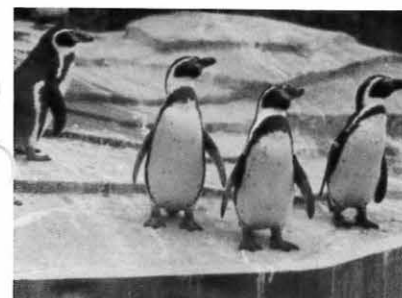
2位 キリン 1,913票 (1位 2,909票)



4位 サル 1,007票 (3位 1,354票)



5位 トラ 842票 (7位 764票)



6位 ペンギン 746票 (8位 656票)



7位 アシカ 621票 (9位 399票)



8位 ゴリラ 590票 (6位 774票)



9位 ホッキョクグマ 434票 (番外)



10位 ヒグマ 369票 (10位 261票)

1・2月の動物園日記

- 1/9. ヤギ5頭、ヒツジ2頭の蹄が伸びてきたので、削蹄をしました。
 11. シロカケイが風邪をひいたので、薬を飲ませました。
 12. トカラウマは治療のかがあって食欲が出てきました。
 16. ヒグマ舎の運動場にある遊木が古くなり腐ってきたので、新しいものと取り替えてあげました。
- トカラウマの左右肩甲部が腫れてきたので

- 注射をして薬を飲ませました。
17. イワトビペンギンが、2卵産卵をしました。ゾウのヒロコが左後肢をびっこをひいているので、治療をしました。
 - オランウータンのメスが元気がないので暖房を強化しました。
 18. ラマがメスの仔を出産しました。コザクラインコの鼻腔に膿瘍ができていたので発見したため、取り除いて薬を塗ってあげました。
 22. タヌキのオスが夕方、けいれんを起こして急死しました。

24. ノートリアが白内障にかかったため、治療をして、入院させました。
 25. 1週間前に生まれたラマの赤ちゃんが、肺炎を起こして死亡しました。
 29. 5年前に上海の動物園より交換動物として入園したクロオオカミのオスが、急に高熱を発生し、治療のかがなく死亡しました。
 31. ホッキョクグマの左後肢より出血が見られるので、薬を飲ませました。
- 2/2. チンパンジーのヨーコが風邪気味で食欲不

- 振のため、薬を飲ませました。
3. 放線菌症で入院中のアカカンガルーに麻酔をして、上顎部の診察をしたところ、依然として化膿していました。
 4. アオエリヤケイ、一番とコボウシインコ、1羽の寄付がありました。コボウシインコは動物園では全国で当園だけにしかない珍鳥です。
 6. インドタテガミヤマアラシの下顎門歯が伸び過ぎていたため、切ってあげました。
 7. ジャングルキャットが昨年に引き続き出産しました。頭数は未確認です。

動物園生活27年（上）

戦后昭和27年4月、丁度「婦人と子ども大博覧会」の終末を告げようとする春爛漫の桜の園に経済局より転動して来ました。当時動物園も復興のつぼみが開きはじり、チンパンジー（シュジーちゃん）の全盛時代で、日曜・祝日はチンパンジー舎の前は黒山の



人で賑っていました。私は動物園獣医一年生として、来る日も来る日も、飼育の人達と一緒に、動物舎の清掃、調理、動物の動静観察、給餌等のかたわら、動物の習性、動物の診療、治療、動物の解剖、野生動物の生態、動物台帳の整理と目新しく、目まぐるしい日々でした。



約6ヶ月位たった頃、飼育の古参の方が、「米田さん、フタコブラクダを詰所前までつれて来て、一度体を洗ってやって呉れませんか」と出し抜けに言われ瞬間内心ドキッとしましたが、獣医として、ここで恥をかいてはと思ひながら、学生時代も軍隊でも馬を扱っていたからやるだろうと内心不安でしたが案外スムーズにやる事が出来、自分自身もうれしく、動物に接する自信も得られるようになった。尚、昭和27年頃に次々と待望のトラ、ライオン、シマウマ、ホッキョクグマ、ダチョウ等が入園、当時の寺

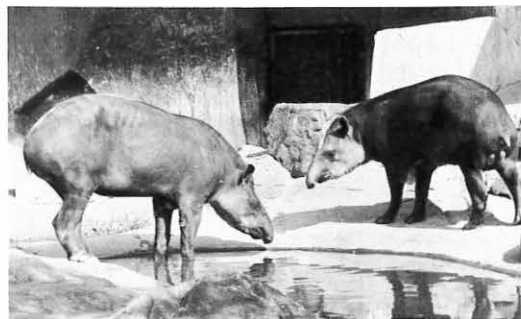


内信三園長の指揮のもとで、動物舎への動物の輸送、移転、檻の据え方、檻の構造、動物の誘導法、捕獲等、動物の異った扱い方等実地に肌で感じて修得していく。

いかに動物園という所は細心の注意を必要とするキメ細かい作業が多く、何事もぶっつけ本番で、神経のつかう所だどつくづく感じさせられ、又日曜・祝日の天気の良い、春・秋の行楽シーズンには人、人、人と人の波、幼児の迷子、泣きわめく声、ケガ人、呼び出し、酔っぱらいの動物へのイタズラ、入場券の追加、つり銭の追加、中途売上の引上げ、置引、スリ、捨得物のしらせ等事務所の中は繁雑をきわめ、てんやわんやの忙がしさ。多い場合は臨時ボックスを出して私も入場券を売った時もあった。

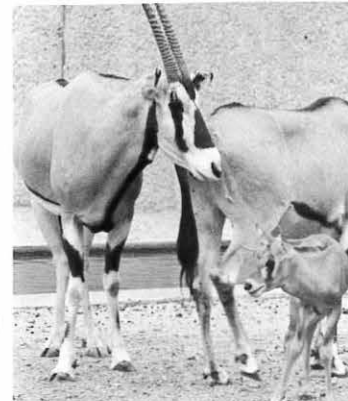
又、昭和28年頃だったと思うが、ニルガイの雄が死亡し、雌1頭が飼われていたが、動物の巡視の時、たまたまニルガイが運動場に出されていなかったの、私は柵をのりこえて、ニルガイを出してやろうと扉を開け、出してやった途端足をすべらせ、倒れかけた瞬間、雌がいきなり私の肩に両脚をかけ、その重みで私は蛙をつぶしたような格好になり、それでも執拗に前脚をかけてくるので、私は必死で前脚の膝関節を両手で押え、力くらべとなったが、私は弱る一方、早く誰か来てくれないかと「オーイ、誰か」と呼べどさげべど誰も来てくれそうもない。5分位たって、現在南園主任の楠本信治さんが来て、私がニルガイに押さえられている姿を見てビックリして助け、ニルガイを追い払ってくれ、私は汗ビッシヨリでやっと立ち上りましたが、生きた心地もしませんでした。ちょっとしたことが事故につながる。動物舎に入る時は充分心がけ、けって転ばないようにする事が大事だと痛感しました。

当時、動物舎の暖房は南北にそれぞれボイラーが一基据えられており、カバ舎、チンパンジー舎、ゾウ舎、サルアパート、トラ舎、ヘビ、ワニ舎位で、昭和28年にキリンが入園し、キリン舎を含め暖房をしておりました。燃料は石炭で、冬季の蒸気暖房はボイラーマンがつききりで大変な作業でした。



昭和32年3月1日にアメリカバクが入園、日本で初めての冬を越さねばならない11月頃からブルブルふるえ始めて来たので、家庭用の石炭ストーブを持込んで、朝出勤と同時にバク舎にとんでいき、木片を燃やし、石炭をくべ9時過ぎにやっとぬくもりかけ、1日何度も石炭をくべに入って、温度表とニラメッコ、大変なことでした。

昭和29年12月に珍しいペイサオリックスの雄が入園、体高1.1m、



角は1mもあり体色は青灰色で、鼻づらと目の下にそれぞれ黒斑をもつ草食獣で、檻に近づくると長い角で突っかかって来る手ごわいやつでした。引き続き昭和30年5月に雌を購入、

体型は雄と同一でやや小さい位で、その年の暮れに可愛い赤ちゃんが生まれました。ピョンピョンとはね廻り母親の乳首に哺乳している姿がとてものぞやかで忘れることは出来ません。これが日本最初の出産1号です。

昭和32年6月頃、神戸の税関から電話が入り、外国船に珍しい鳥を積んでいるので、見に来て呉れるようにとの事で、少し電話で内容を聞くと、南極のペンギンのように思えるので明日の朝一番に行きますと返事をして電話を切る。翌朝、檻をかかえて神戸の税関に行き、係官と一緒に卓頭から外国船に乗り込んでみると冷蔵庫の中に唯



1羽のペンギンがおりました。私もペンギンはファンボルトペンギン位しか知らなかったが、頸に黒い線が入っているので、これは珍しいヒゲペンギンでした。早速船長と会い、色々話をしておりましたが、是非もらってほしいとの話なので、喜んで戴くことにしました。檻に入れて下船、税関まで帰って来た所、動物検疫を受けてほしいとのことなので、氷屋

をさがして檻に氷を入れ、検疫所まで往復1時間位かけて検疫をすませました。阪急の三ノ宮駅までタクシーで向かいましたが改札口で動物を乗せてもらっては困ると言われたので、駅長室に入って説明すると、かえって丁寧に電車の運転台まで運搬して頂き、やっと安心して帰園しました。当時はまだ冷房ペンギン舎も設置されていないので、北園の樹木の茂った日照の少い所で飼うことに決め、氷を入れ毎日大変でしたが、約6ヶ月位で死にました。原因はアスペルギルスでした。あんなに苦労したのに、生き物を育てるのは大変なことです。

又、その頃から南氷洋への捕鯨が盛んとなり、日本水産とか大洋漁業等の会社よりペンギンを持ち帰ってきたら差上げますとのことで、急いで冷房ペンギン舎の建設にとりかかり、昭和33年3月に当時日本一の冷房ペンギン舎が完成し、まもなくアデリーペンギン2羽、ヒゲペンギン1羽が7月に入って来ました。寄贈者の方も冷房ペンギン舎を見て満足した表情で喜んでおられました。



次いで当園にゴリラを入園させて、市民の皆さんにも、又、子供達への飼育プレゼントして喜んでもらうよう企画し、それを実行に移すのに、当時の中川道朗係長が未知の動物（ゴリラ）の調査、資料収集に東奔西走し、ゴリラの生態、能力、飼料、特に大変苦労されたのは建物、温度、運動場をどのようにすべきか、私は先輩の努力に感心すると共に、単にネゴヤに過ぎないと人は思うだろうが、動物舎の建設が如何にむづかしいかを教えられました。

昭和36年3月に1才位の可愛いローランドゴリラが入って、園職員全てが喜びあいました。

（飼育係長：米田 敏光）

天王寺のどうぶつたち (24)

クロサイ (上)



誕生間もないサッチャンとバーバラ。サッチャンの角はまだまるでイボのようです。

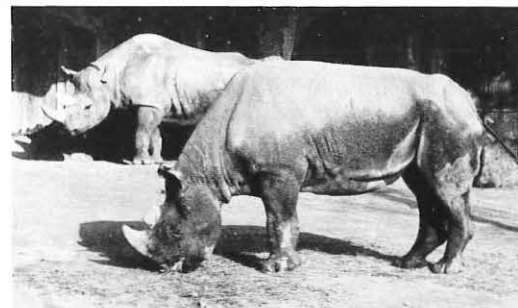
§ はじめに

今、天王寺には2頭のクロサイが飼われています。メスのサッチャンとオスのサイ王です。サッチャンは昭和47年2月に天王寺で生まれました。ちょうど7才です。サイ王は昭和50年6月にアメリカのロサンゼルス動物園で生まれました。サイ王は3才半です。ヒトにたとえたとサッチャンが25才位の娘盛り。サイ王は中学生といったところでしょうか。サイ王は1才半になった51年12月に天王寺にやってきました。長旅の疲れからか、やせてガリガリで体重は350kg程でした。そのころサッチャンはもう1t位ありましたから、お客さんは「お母さんと子供だね。お父さんはどこにいるのかな？」とよく探しておられました。

§ バーバラ、サイタロウ入園

昭和30年、初めて天王寺にオスのクロサイがやってきました。35年に続いてメスが入り、待望のペアとなりました。しかし、翌年の正月、入園して間もないメスが死んでしまい、そこでその夏、もう1頭のメスが入ってきました。でも今度は秋に相手のオスが死んでしまい、とうとうメス1頭だけとなってしまいました。そしてしばらくメス1頭だけでしたが、これでは繁殖も不可能だということで昭和40年8月、このメスをよその動物園へ送り、新たに若いオスとメスを購入しました。この2頭はサイ

王が入ってきた頃よりもまだ小さかったそうです。



ありし日のサイタロウ(手前)とバーバラ(後)

そして、この2頭こそ、のちにサッチャンのパパとママになったサイタロウとバーバラです。サイタロウもバーバラも野生の生息地であるアフリカで生まれています。

§ サッチャンの誕生、サイタロウの死

まだ小さくてかわいい盛りだった2頭もドンドン大きくなり、入園して4年たった昭和44年頃から、ポツポツ交尾をするようになってきました。しかしクロサイの繁殖は大変むずかしく、当時は神戸の王子動物園だけが繁殖に成功していただけだったので、ひょっとしたらダメかもしれないという不安と、交尾も成功しているんだから大丈夫という期待とで息苦しくなりながらも、15、6ヶ月という長い妊娠期間の間、当時の係員達は首を長くして待っていたそ

うです。そして、やっと昭和47年2月1日、サッチャンが誕生しました。



初めてサッチャンが運動場に出た日。係員に押してもらってやっとお出まし。

その後3頭のほほえましい家族生活が続いたのですが、昭和49年2月、父親のサイタロウが、古くなって破壊された赤血球の鉄分が大腸に蓄積してしまい腸炎を起すという奇病におそわれ、必死の看護もむなしく死亡してしまいました。残されたのは母親のバーバラと娘のサッチャン。サッチャンはまだ2才のほんの子供でした。

§ バーバラの出園、サイ王の入園

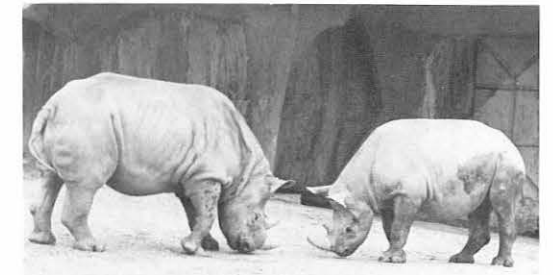
サイタロウは死ぬ前にバーバラと交尾していたのでひょっとしたらもう1頭……、の期待もむなしく、それからずっと母娘2頭だけの生活が続きました。しかし、メスだけでは繁殖も不可能です。クロサイは現在、世界中で12,000頭位しかいません。この数は激減した他のサイから比べるととても多い数なのですが、やはり人間が積極的に守ってやらないと絶滅が目に見えている程貴重な動物です。こんな大事な動物を繁殖の可能性もなく、ただ飼うだけでは、動物園の本来の目的に反します。こんなこと



から、幸せに暮らしていた2頭にはかわいそうなのですが、母親をオスのいる他の動物園に出し、オスを新たに入園させて、天王寺でも繁殖を再開させるという案が出てきました。みんな悩み元氣一杯のサッチャン勢い余ってシリモチ。ました。せっかく幸せに暮らしている2頭を別れる必要は無い、とか、母娘を別れ別れにさせるのはかわいそうだという意見も出ましたが、やはり貴重なクロサイをなんとか

増やそうという意見に負け、バーバラは茨城県の日立市かみね動物園に昭和52年4月6日送られました。

こうして母娘は別れ別れになりましたが、サッチャンはそんなに悲しがりませんでした。前の年の12月に入園していたサイ王がいたからです。サッチャンはどうかしてサイ王のそばに行こうとします。しかし、当時サッチャンは1t、サイ王は350kg。サッチャンがふざけてサイ王を突いたとしてもサイ王はそれだけで骨折しかねません。慎重に慎重をかさね、隣りあった部屋でお見合をさせ、サイ王の体重が増えるのを待ちました。その間、午前中はサッチャン、午後はサイ王というふうには2頭を別々に運動場に出していました。



ずい分大きくなったサッチャン(右)とバーバラ(左)

長旅の疲れでやせていたサイ王もすぐに天王寺の環境に慣れ、グングン大きくなりました。大きくなってきたサイ王は今度は自分の方からサッチャンの方に寄って行ききたがるようになってきました。

§ サッチャンとサイ王の同居

そこで、サイ王がやって来てから1年後、思いきって2頭を運動場で一緒にすることになりました。もし闘争を始めた時、それをやめさせるため運動場はものものしい警備陣に取り囲まれました。ある人は放水用の水道のホースをにぎりしめ、ある人は大きな音をたてて注意をそらせるためのバケツと棒を持ち、ある人は2頭を別けるための長い竹ザオを持ち、万全の体制で2頭の登場を待ちました。

まずサイ王を運動場に出しました。周囲を取り囲む警備陣のせい、サイ王は少し緊張気味です。落ち着いたところでサッチャンを出しました。取り囲む人々の間に緊張した空気がピーンと張りつめました。サイ王とサッチャンが向い合いました。次の瞬間、2頭は鼻と鼻を合わせ、挨拶をしたようです。そしてまるでお互いの存在を無視したように置かれていた朝食の乾草を食べはじめたのです。その時から今まで、サイ王とサッチャンは一度もケンカらしいケンカをしたことはありません。

こうしてクロサイのオスとメスの同居は成功しました。昭和52年11月のことです。(つづく)

(長瀬 健二郎:飼育課獣医師)

キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑨

《エランドの天気予報》

地震予知動物の研究が、世界各国で、注目を集めている。我々飼育係は、地震とまでは行かなくとも例えば、雨でも、ある程度動物の動作を見ていれば、予測がつくものである。この点私が当園に就職して、未だ間もない頃、当時、“かもしか園”で飼育して



いたエランド嬢は、雨を予知すると、寝室から出さないので、大分苦勞をさせられた思い出がある。例えば、朝出勤する、……動物を運動場に出す、空は晴天。……だがこのエランド嬢は、寝室から出るのを拒む。……それでも無理に追い出す。……昼過ぎ、どうやら雲行きが怪しくなってきた。その内、雨がポロポロ……。あげくの果て大雨となつて、私が慌てる……。こんなパターンをくり返すうち、このエランド嬢が私の天気予報役となつて、その後、大いに役立ってもらい、仕事の上で、なくてはならない存在となつた。

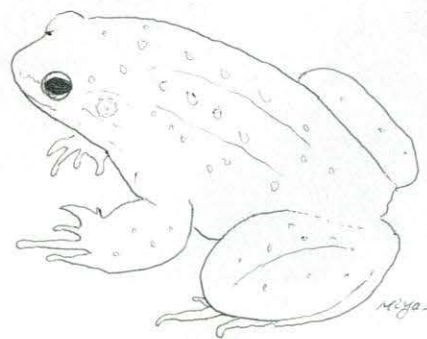
しかし、このエランド嬢も、バイサオリックスに突かれたのが致命傷となり、1972年4月、惜しくも死亡。思い出の多い動物の1つであった。

(葭谷 文彦)

《暖冬異変とガマガエル》

冬の訪れと共に、当園カンガルー舎運動場の、水飲み場に居候しているガマガエル君も、長い冬眠のため、泥の中へともぐり込んでしまった。しかし、今年の冬は何しろ、稀にみる暖冬異変ときた。いかな万物の靈長、人間様でも迷惑千万な所へ、このガマガエル君、春の訪れと勘違いしたのか？ はたまた、浮かれ出て来たのか？ それはわからないが、とにかく冬眠から醒めた。ここまでは良かった……。後が悪かった……。暖冬異変の後には寒波襲来ときた……。人間様でも、体の調子が狂い、中には、頭の調子まで狂った人も、多かつたと思うのに、変温動物の代表格、カエル君が、事もあろうに異常気象のあおりで、冬の真ただ中に、ヒョッコリ出てきたのだからたまらない。行き場のない憤りを、ジッと心にしまっている姿が、痛々しい。こんな由で、このガマガエル君、衰れにも、春が訪れる迄、石の間に、身を寄せなければならぬハメとなつた。

異常気象も、これでは冗談がきつ過ぎる様ですネ。“冬の最中、変温動物のカエル君が、地上にヒョッコリ顔を出した”という、誠にユーモラスなこんな光景も、当時者のカエル君にとっては、死活問題です。こんな狭い、動物舎の小さな水飲み場にも、厳しい自然界と動物の一面が見られます。



(葭谷 文彦)

動物園ニュース

§ イワトビペンギン産卵

昨年日本で初めてヒナがかえったものの、すぐに死亡しガッカリしたイワトビペンギンでしたが、今年もまた産卵しました。昨年同様、今年も2ペアが2ヶ所の巣で2卵ずつ暖めています。A巣は1月16日、17日、B巣は19日と23日にそれぞれ産みました。このうちB巣の方が昨年ヒナがかえった巣で、またA巣の方もヒナこそかえりませんが、有精卵がとれています。A巣のオスはヨタローと名付けられた、とても人になれているペンギンなのですがさすがに抱卵期はとても気があらくなり担当者にもつかかっていく程で、懸命に巣を守っています。この分でいくとA巣、B巣共、今年は立派なヒナがかえりそうです。



§ アオエリヤケイ入園

2月7日、アオエリヤケイ一番いの寄贈がありま

ずくまっていました。暗い室内を目をこらして見るとメスのおなかの下で3匹の仔が動いているのが発見されました。

両親は昭和52年4月16日、バングラデシュのダッカ動物園から親善動物交換で送られてきたもので、昨年4月19日にはオス2頭、メス1頭の仔を日本で初めて出産しました。今回の出産は2度目で、2年連続の快挙となりました。母親は初産の時から仔の面倒見の好いやさしいママでしたので、今度の仔もきっと立派に成長するものと期待しています。

§ 飼育研究会開催

1月25日、今年最初の飼育研究会が開かれました。発表議題は3題で、東係員の「カリフォルニアアシカの繁殖記録について」前木獣医の「ダマシカの第一胃切開について」そして宮下獣医の「昭和53年1年間の当園の疾病動物について」の発表がありました。

§ ボランティア定例会開催

2月4日、ボランティアーズの定例会が開かれました。今回の定例会では長瀬獣医から「冠島のオオミズナギドリについて」の講演がありました。スライド約40枚を使ってのお話で、まだ十分に解明され

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

《エランドの天気予報》

地震予知動物の研究が、世界各国で、注目を集めている。我々飼育係は、地震とまでは行かなくとも例えば、雨でも、ある程度動物の動作を見ていれば、予測がつくものである。この点私が当園に就職して、未だ間もない頃、当時、“かもしか園”で飼育して

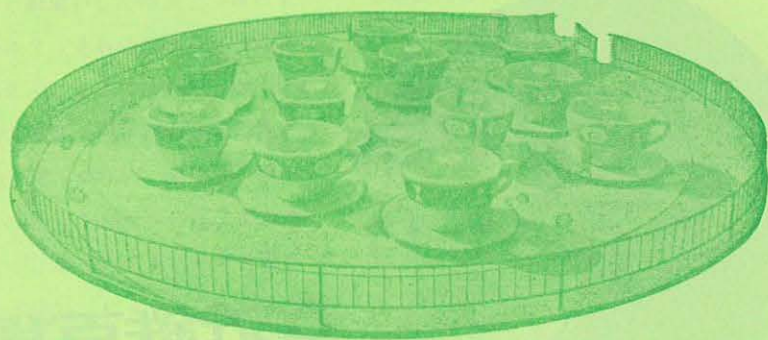


いたエランド嬢は、雨を予知すると、寝室から出室しないので、大分苦勞をさせられた思い出がある。例えば、朝出勤する、……動物を運動場に出す、空は晴天。……だがこのエランド嬢は、寝室から出るのを拒む。……それでも無理に追い出す。……昼過ぎ、どうやら雲行きが怪しくなって来た。その内、雨がポロポロ……、あげくの果て大雨となって、私が慌てる……。こんなパターンをくり返すうち、このエランド嬢が私の天気予報役となって、その後、大いに役立ってもらい、仕事の上で、なくてはならない存在となった。

しかし、このエランド嬢も、ペイサオリックスに突かれたのが致命傷となり、1972年4月、惜しくも死亡。思い出の多い動物の1つであった。

(葭谷 文彦)

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江御池通2-100
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

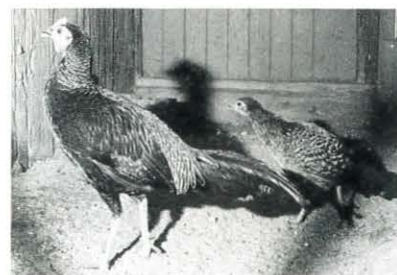
§ イワトビペンギン産卵

昨年日本で初めてヒナがかえったものの、すぐに死亡しガッカリしたイワトビペンギンでしたが、今年もまた産卵しました。昨年同様、今年も2ペアが2ヶ所の巣で2卵ずつ暖めています。A巣は1月16日、17日、B巣は19日と23日にそれぞれ産みました。このうちB巣の方が昨年ヒナがかえった巣で、またA巣の方もヒナこそかえりませんが、有精卵がとれています。A巣のオスはヨタローと名付けられた、とても人になれているペンギンなのですがさすがに抱卵期はとても気があらくなり担当者にもつかかっていく程で、懸命に巣を守っています。この分でいくとA巣、B巣共、今年には立派なヒナがかえりそうです。



§ アオエリヤケイ入園

2月7日、アオエリヤケイ一番いの寄贈がありました。アオエリヤケイは4種あるヤケイの仲間のひとつですが、現在のニワトリの直接の先祖ではないそうです。分布地域はジャワ島とその周辺のバリ、



ロンボクといった島々で、これらの島々の海に近いところに住んでいるそうです。

今回寄贈されたペアは昨年生れのもので、アオエリヤケイは1才で産卵を始めますので、今年の春にはドンドン卵を産んでくれることと思います。

§ ジャングルキャット出産

2月7日朝、担当係員がジャングルキャット舎に行ってみたところ、メスが寝室内にう



ずくまっていた。暗い室内を目をこらして見るとメスのおなかの下で3匹の仔が動いているのが発見されました。

両親は昭和52年4月16日、バングラデシュのダッカ動物園から親善動物交換で送られてきたもので、昨年4月19日にはオス2頭、メス1頭の仔を日本で初めて出産しました。今回の出産は2度目で、2年連続の快挙となりました。母親は初産の時から仔の面倒見の好いやさしいママでしたので、今度の仔もきっと立派に成長するものと期待しています。

§ 飼育研究会開催

1月25日、今年最初の飼育研究会が開かれました。発表議題は3題で、東係員の「カリフォルニアアシカの繁殖記録について」前木獣医の「ダマシカの第一胃切開について」そして宮下獣医の「昭和53年1年間の当園の疾病動物について」の発表がありました。

§ ボランティア定例会開催

2月4日、ボランティアーズの定例会が開かれました。今回の定例会では長瀬獣医から「冠島のオオミズナギドリについて」の講演がありました。スライド約40枚を使ってのお話で、まだ十分に解明されていないオオミズナギドリの生活について、大変興味深い情報が提供されました。講演のあと、昨年保護され、まだ研究室に収容されている3羽のオオミズナギドリを見学しました。興味ある話のあとで、その実物を見たせいか、出席者全員少々興奮気味でした。

§ 「ボランティア」を募集しています

天王寺動物園では、毎年夏休みに小学生(4~6年生)を対象としたサマースクールを開催していますが、このお手伝いしていただけるボランティアを募集しております。

動物や自然を愛する高校生以上の方で、サマースクール期間中(7月下旬)、奉仕いただける方の応募をお待ちしております。

[連絡先:天王寺動物園 06-771-8401]

毎月第3月曜日は休園日です。6月までの休園日は下記の通りです。

3月19日、4月16日、5月21日、6月18日

開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

なきごえ 昭和54年3月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

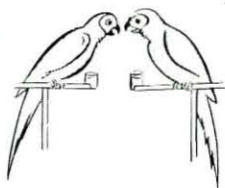
第17巻第3号(通巻163号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

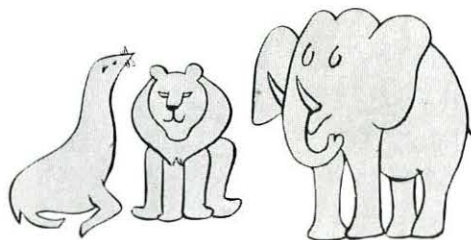
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・苅谷 文彦・仲谷 登